

平成21年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて
 ~ 北海道（公立）における調査結果 ~ （概要）

平成21年8月
 北海道教育委員会

調査の概要

平成21年4月21日（火）実施

調査内容

- ・ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
- ・ 主として「知識」に関する問題（A）と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題（B）を出題
 また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

参加状況

- ・ 参加学校数 1,885校
 （札幌市、道立特別支援学校を含む）
- ・ 参加児童生徒数 91,761人

教科に関する調査の結果

	小学校				中学校			
	小学校国語A	小学校国語B	小学校算数A	小学校算数B	中学校国語A	中学校国語B	中学校数学A	中学校数学B
北海道（公立）H21	66.0	45.9	74.1	51.5	76.1	72.6	61.1	55.4
北海道（公立）H20	60.5	46.4	66.4	47.7	72.7	59.0	60.3	45.9
	(+5.5)	(-0.5)	(+7.7)	(+3.8)	(+3.4)	(+13.6)	(+0.8)	(+9.5)
全国（公立）H21	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9
全国（公立）H20	65.4	50.5	72.2	51.6	73.6	60.8	63.1	49.2
	(+4.5)	(± 0.0)	(+6.5)	(+3.2)	(+3.4)	(+13.7)	(-0.4)	(+7.7)
全国との差 H21	-3.9	-4.6	-4.6	-3.3	-0.9	-1.9	-1.6	-1.5
H20	-4.9	-4.1	-5.8	-3.9	-0.9	-1.8	-2.8	-3.3
全国との差が縮まったもの					-			

（ ）はH20からH21の伸びを表す。

全体的に見ると、小・中学校ともに、全国の平均正答率との差が縮まってきており、特に、中学校は、全国平均に一層近付いてきているが、小学校は、依然として全国平均よりも低く、差が大きい。

質問紙調査の結果 < 児童生徒 >

国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度よりも、小学校で若干高い傾向、中学校では同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様の傾向、中学校で若干高い傾向。

算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様の傾向、中学校で若干低い傾向。

1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様の傾向、中学校で高い傾向。

自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で低い傾向、中学校で同様の傾向。

学校のきまり・規則を守っている児童生徒の割合は、昨年度よりも、小学校で若干高く、中学校では同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

質問紙調査の結果 < 学校 >

児童生徒が熱意をもって勉強していると思っている学校の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

朝読書などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、昨年度よりも、小・中学校とも高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、昨年度よりも、小・中学校とも高い傾向。全国（公立）と比べて、小学校で若干低く、中学校では低い傾向。

長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、昨年度よりも、小・中学校とも高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

国語、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校国語、小学校算数で同様の傾向。中学校国語で低く、中学校数学で若干低い傾向。

全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は、昨年度よりも、小・中学校とも高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。